

健康医療市民会議（KISK）会報 Vol. 45

2011年12月号



毎年暮れになると思う「年の過ぎるのは速い」ですが、今年はどうなんでしょう。3月の大震災が昨日のごとく思い出され・・・という人にとってはやはり速いということでしょう。ご家族や親友を亡くしてまだ気持ちの整理がつかない方、原発放射能に追い出されて故郷を離れて暮らされている方にとってはクリスマスどころではありませんが、日本なら、被災者の方がせめて物理的には十分“暖”の取れる暮れ、正月になっているかはみんな確認したいものですね。

12月定例会 20日です。初めての場所です。 **要注意！**・・・詳細 P.2



12月は20日（火）です。例年通り、懇親、交流会があります。今回、初めて赤坂ツインタワー東館にある TKP 赤坂ツインタワーカンファレンスセンターで開催。さて、交流会の前に、いつもの健康医療から離れ、政治経済の勉強を少し。東日本災害復興特別委員会委員長として大震災からの復興に取り組んでおられる衆議院議員古賀一成様に「これからの政治」と題したお話を。また、国債の格付けが逆に国の経済に影響するほど力をつけてきた格付け会社ですが、格付投資

情報センターの代表取締役会長久庭啓一郎様に「日本の政治と経済を格付けする」と題したお話を聞きます。また、梶原代表より市民学シリーズの第3弾として「病気に克つ」（自然治癒力と自己治癒力）の報告があります。予約の都合上、お早めにお返事下さい。（12月13日必着で！）

11月定例会の報告・・・詳細 P.3-5

11月は初めてペットの先生、山村穂積先生から人の健康医療にも通ずるお話を聞きました。また、お馴染みの久野則一先生から食事を中心に、秋から冬への健康へのアドバイスを聞きました。

その他・・・詳細 P.6-9

軽い傷の手当ての湿潤療法、食物アレルギーの話、所得と医療費の関係、医療は公共財かビジネスか、ではロングテイルビジネスと医療について考えてみました。

健康医療市民会議（KISK） 代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-2 東武ハイライン大門203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: <http://www.kisk.jp>

お知らせ：会報は当会ホームページ <http://www.kisk.jp> の「会報」ボタンからダウンロードでき

定例会のご案内

日 時：平成 23 年（2011 年）12 月 20 日（火）16 時（午後 4 時）～20 時 00 分

場 所：TKP 赤坂ツインタワーカンファレンスセンター（東館 8F）（下図参照）

参加費：会員：¥7,000 同伴者・ビジター¥8,000（当日現金にてお受けします。）

内 容：1 部（16:00-18:00）講演

「これからの政治」古賀 一成 様

衆議院議員・衆議院東日本災害復興特別委員会委員長

「日本の政治と経済を格付けする」久保庭 啓一郎 様

株式会社格付投資情報センター代表取締役会長

「中間報告」および市民学シリーズ第 3 弾「病気に克つ」（自然治癒力と自己治癒力）

健康医療市民会議 代表 梶原 拓

（なお、講演順は入れ替わる可能性もあります）

2 部（18:00-20:00）交流会

（軽食と飲み物のビュフェパーティ）

予約の都合上、12 月 13 日までに添付 FAX 用紙にてお返事下さい。



古賀一成様略歴：1947 年福岡県生まれ。東京大学（法）卒。建設省入省。都市局企画官等歴任。1993 年衆議院議員初当選。民主党両院議員総会会長、衆議院国家基本政策委員、衆議院国土交通委員長等歴任。本年 9 月現職。当会の医療改革懇談会（三者会）にも参加され、いろいろご意見を頂戴しました。

久保庭啓一郎様略歴：1945 年生まれ。早稲田大学（政経）卒。日本経済新聞入社。自民党キャップ、官邸長などのあと政治部長、大阪本社編集局長、常務取締役名古屋支社代表、専務取締役経理・管財担当等歴任。2007 年同社系列の格付投資情報センター代表取締役社長、2010 年同会長（現職）。当会定例会には大変よくご参加頂いております。

梶原代表の「病気に克つ」について：梶原代表が幾多の図書等から学んだ予防や治療法を市民の立場からまとめ、市民学シリーズとして、本年 8 月に「頭の健康法」、10 月に「がんの予防と治療の市民学」を定例会にて報告。今回はその第 3 弾で自然治癒力と自己治癒力に焦点を当てています。当日参加者に未定稿のテキスト配付。

TKP 赤坂ツインタワーカンファレンスセンターのご案内

東京都港区赤坂 2-17-22

赤坂ツインタワー東館 8F

- ・銀座線・南北線「溜池山王駅」(12番出口)徒歩1分
- ・千代田線「赤坂駅」徒歩7分
- ・千代田線・丸ノ内線「国会議事堂前駅」徒歩7分

ご来場ご注意

会場は赤坂ツインタワー（ATT）の東館 8F です。上記地下鉄のいずれもご利用出来ますが、駅の中をかなり歩く場合もありますので余裕をもって来られることをご勧めします。駐車場はありますが地下鉄が無難です。



11月定例会の報告（メモ）

第44回、11月の定例会は15日、日本財団の会議室にて開催。代表の中間報告の他、ペットの医療の権威である山村穂積先生のお話、お馴染みの久野則一先生のワンポイントレッスンなどがありました。

<中間報告> 健康医療市民会議 代表 梶原 拓

いつものように「情報の共有」として、前月10月の定例会について振り返り、自身の「がんの予防と治療の市民学」を例に、会員自身の学習の成果を披露する機会を増やす予定とのお話でした。また、11月の定例会の講師のお二人の紹介と12月の講演・交流会の予定（12月20日火曜日）の紹介がありました。

また、インターネットのフェースブックに「健康医療市民会議の公開型」として全員参加の「健康医療市民倶楽部」を立ち上げ、いい病院、いいクリニック、いい薬などの情報の交換の場とし、患者・市民の共有の財産として活用するという計画を進めていると報告がありました。会員の黒川様には編集を担当して頂くとのことですが、その他の会員の方々にも投稿等のご協力を頂きたいとのこと。（実名で登録する原則があり、すでに何人もの会員の方の名前があるようです。今回、FAX 申込用紙にフェースブックに関するアンケートを載せていますので定例会不参加の方もぜひお答え下さるようお願いします。）



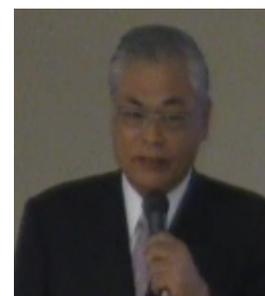
「講演：人と動物の絆、豊かな心のふれあいと動物医療」

株式会社ホズミ 代表取締役 山村 穂積 先生

先生はパソコンはかなり得意のようで、パワーポイントもかなり動きのある楽しいものでした。まず自己紹介があり、まだ当時珍しかった頃獣医になって、1968年に開業し、以来40年以上ペットの医療に従事。4年前に経営されている Pet Clinic アニホスの院長を退任され、経営に専心されている。学術的な講演は多いが、一般飼い主向けの講演はめずらしいとのことでした。

以下、お話の要点です。

- ・犬は癒しの役目をもつとして飼われているが、人間と犬との付き合いは、1万～1万2千年前から犬が人に飼育され始めたことに始まる。自分より強いものにはリーダーとして服従する。
- ・アニマルセラピーとは、動物と触れ合うことで人の心の孤独やストレスを癒やすこと。リハビリなど治療補助にも。
- ・人にもペットにも言える健康を維持するための3大要素は、環境、運動、食事である。
- ・異種族との共同生活だから相互コミュニケーションはとても大切。そのためには、日常の観察、性格や行動パターンの認識、正しい知識が3つの大きな要素。子犬は3週から12週にかけて社会化期となるが、この時期にいろいろ経験させ、接触することが重要。この時期に経験のないことに後で接触した場合に誤ったしつけをすると問題行動を起こす可能性が出てくる。



1 1 月定例会の報告（メモ）（続）

「講演：人と動物の絆、豊かな心のふれあいと動物医療」（続）



- ・ドッグフードは 1960 年ごろイギリス在住が開発された。当時は粗悪な餌としてのドッグフード、現在は栄養学の発達を受け、食事としての良質なフードになっている。
- ・免疫力を高める食事が重要。
- ・人と異なり、犬は殆ど噛まないで胃から消化が始まる。

- ・犬は足の裏でしか汗をかかない。したがってナトリウムの排泄が少ないので塩分は自然のものだけで十分。
- ・犬は消化のよいものがよい。総合栄養食で十分。一般食はおかずと考え、少ししか与えないこと。
- ・避けるべき食べ物は、ネギ（すき焼きの残りなど厳禁）、チョコレート（極端な場合死ぬことも）、アボカド、レーズン、キシリトール、観葉植物。風邪薬もだめ。骨付きの鶏の肉。
- ・犬と猫の違い・・・犬は雑食、猫は肉食。犬がキャットフードばかり食べると栄養過多。猫がドッグフードばかり食べるとタウリン不足になる。
- ・動物は外敵から身を守るため病気のサインが出るのが遅いし、代謝率が人間の 5～10 倍高い。体重、活発さ、食欲、口の中、尿、ウンチ、皮膚の状態などを注意しよう。
- ・動物保険はアニコム損保の「どうぶつ健保ふぁみりい」を推薦。
- ・病気予防には、ノミ寄生対策、ワクチン接種、フィラリア予防、健康診断など。
- ・ペットクリニック・アニホスの紹介・・・板橋・常磐台／獣医師 23 名他、計 63 数名で運営。



<質問にたいして>

- ・胃液を吐く—ドッグフードを柔らかく砕いて与えてみる
- ・小枝を飲み込んだらしい—大きいと胃の中に 1 年も停滞する可能性あり。様子見て以上があれば超音波とか X 線で検査。
- ・犬の雄雌が人の男女の好みは一男女による好みはない。主従の力関係のみ。
- ・購入の基準—今のペットショップはクリーンになった。生体販売業の規制が厳しくなった。まずは元気、からかってすぐやってくる子がよい。おとなしいのはダメ。小さいの（ティーカップブードルなど）は弱い。
- ・去勢—子犬を作らないことが確定していれば、2 歳以内に避妊手術を勧める。病気の予防になる。
- ・常に餌を欲しがると—一回の量を増やして見るとか、人をきめるとか。
- ・猫が弟猫、妹猫がいなくなって怒った—そういうことはある。難しい。

ペットも家族。健康維持には人間並みになかなかの努力がいることは間違いなさそうです。

1 1月定例会の報告（メモ）（続）

ドクターのワンポイントレッスン「秋から冬にかけての健康アドバイス」

久野マインズタワークリニック院長 久野則一先生

「天高く馬肥ゆる秋」というのは冬支度。体に脂肪を溜めて冬に備えることだが、これは言わば飢餓の時代の名残。現代の飽食の時代にはどうあるべきか。

<カロリーカット>サルを使った実験で、カロリー制限しないサルとカロリー30%カットしたサルの30年後の健康状態を比較すると、明らかにカロリーカットしたサルの方が健康だった。アメリカでは人でもテストグループが出来ており、カロリー摂取と寿命、健康の関連の追跡調査をしているようだ。



<尿酸値>血中の尿酸値が上がると痛風や腎機能障害を招くので尿酸値には注意。尿酸値が高くなる理由には、尿酸過剰生成型と尿酸排出抑制型がある。尿酸値を下げるには、前者はザイロック、後者はユリノームという薬を使うのだが、型まで調べないで投与されるケースが多く、排出型が圧倒的に多いのに現在は同じ程度に使われている。尿酸は活性酸素対策の一つだが、尿酸が尿中に出ず血中に残るのはサビがあるということ。

<油ものは野菜と一緒に>植物性の油はさびやすい。酸化した油はさびのようなもの。とんかつ（豚肉のラード自体はさびにくい）はキャベツと、焼き魚、特に干物は大根おろしと、刺身はつまと一緒に食べよう。植物油でもオリーブ油はさびにくいので欧米で地中海料理の流行る理由では。

<朝すぐ歯磨き>寝ている間に口腔に繁殖する細菌が酵素を出し、それが体内に入るとインフルエンザウィルスなどに感染しやすくなる。朝起きたらすぐに歯磨きする。喘息の発作も予防する。

<主食は何にすべきか>人類38億年の歴史があり、時代の変遷とともに食べ物についても多様である。穀物を食べ始めたのは1万年前、稲作は8000年前からと人類史から見ればごく最近のこと。自分は雑穀菜食を勧めてきたが必ずしも正しいとは言えない。38億年の間には遺伝子も多様化しており、個人差を考えよう。主食を何にすべきかについては正直言って今答をもっていない。

<病気は必然>ある意味、病気は必然であり、いかに楽しい人生を送るかに焦点を当てた方がいいかもしれない。

久野マインズタワークリニックに関し、梶原代表からも紹介があり、先生からも、

<MRA>血管の状態を映すことの出来るMRAは随分進歩して来て、当院も近々導入するのでその準備をしている。中心は脳の血管障害の発見。静脈も映すことが出来るので、下肢静脈瘤などにも適用可能。

<みみず>みみずを原料にしたLR沫という健康食品を販売している。とても血栓を溶かす力が強いし、MRAを導入すれば直接その効果、エビデンスが見られると期待。

<カロリーカット実践>先生も今カロリーカットを実験中で、現在、朝食、昼食を抜いて、夕食だけにしている。

その他、埼玉県知事選の投票率23%という低率、民主主義の停滞にチクリ。まとめとしては、やはり「ほどほどに食べましょう」。短いながらもなかなか意義あるお話でした。

オキシフル・ガーゼさようなら

湿潤療法ご紹介

あなたは転んだりして軽い傷を負った場合にどう対処しますか。がんなど重い傷病の治療法ばかりでなく、傷の手当てでも新しい治療法の波が押し寄せているようです。軽い傷の手当ての常識は長らくの間オキシフルとか赤チンで消毒し、軟膏でも塗ってガーゼを当てておくと言うものでした。しかしながら、2000年代に入り、湿潤療法という傷の治療法が登場し、あまたNHKの「ためしてガッテン」でも紹介されたこともあり、よく知られるようになりました。

湿潤療法とは簡単に言えば、止血が必要な場合は止血、傷口を水で良く洗って異物は除去し、決して消毒はせず、患部を湿潤治療用の絆創膏や食品用のラップなどで巻いておくというもの。乾燥させないのでかさぶたも作りません。大きな利点は、消毒やガーゼをはがすことに伴う痛みがないことです。基本的な考え方は、「傷を治すと言うことは細胞の再生を促すこと。消毒薬は細菌だけでなく、正常な細胞も殺してしまい、また乾燥は組織の再生を遅らせるので湿った状態を保つべき」と言うもの。欧米においてはすでに1960年代から普及し始めた方法とのことです。



現在ではこの湿潤療法を適用した創傷被覆・保護材は数種類出回っており、「バンドエイド・キズパワーパッド」(JJ)、「ケアリーブ」(ニチバン)、「デルガード・クイックパッド」(阿蘇製薬)などが市販されていますが、元は医科向けの医療機器であったり、結構高いものもあります。もしこのような専門の被覆材がない場合は、食品用ポリエチレンラップに白色ワセリン

を塗り、傷を覆い、絆創膏で留め、包帯で巻いて毎日取り換えるのが良いとか。

いずれにしても、湿潤療法は軽い傷の場合に適用するものであり、深い傷とか出血がひどいような時は当然ながら外科医の診断を仰ぎ、治療法についても聞きましょう。

さて、会報で治療法などを紹介する場合は、偏りがないようにいくつかのサイトを参照して書いていますが、この湿潤療法については、どのサイトも全般的に、この療法の普及に努力されている夏井陸さんという形成外科医の先生の影響が大きいようです。先生は「新しい創傷の治療—消毒とガーゼの撲滅を目指して」というサイトを持っておられ、すでに延べ800万人の訪問者がサイトを訪れているようです。この療法を採用している病院や医師など、関連するいろいろな要素が書かれています。ちょっと難しくなりますが、この治療法を推すもっとも重要なポイントの一つである消毒・殺菌について、抗生物質は細胞壁をターゲットにしているので細菌に特異的に作用し、人の細胞等真核細胞には作用しないが、細胞膜、細胞質、核をターゲットにした殺菌法は基本的に人体細胞にも作用するので、消毒は良くないとのこと。

さて、軽い傷と言う極めてよくあることの対処でさえ、当たり前のようにやってきたことが否定されると言うのを見ると、やはり、医療はいろいろ大きく変化して行くということでしょうか。

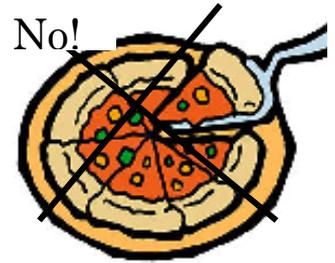
食物アレルギー

小麦石鹼事件に思う

最近、小麦成分の入った石鹼が結構重いアレルギー症状を起こして商品回収などがニュースとなっています。小麦由来のたんぱく質グルパール 19S という成分が発症にかかわっているとされています。グルパール 19S は小麦のたんぱく質を「加水分解」して、水に溶けやすくしたもので保湿性が高く石鹼や化粧品に良く使われるとのこと。この成分の入った石鹼は、2004 年以來、問題の発端となった石鹼「茶のしずく」の販売元「悠香」を含め計 7 社が販売していて、「悠香」だけでも 46 万個、およそ延べ 500 万人が買った、言わばヒット商品、人気商品であったとすることでしょう。報告では、重症者も含め 500 人近い人に発症。報告分では 1 万人に 1 人と言う計算になりますが実際の被害者はもう少し多いことでしょう。

食物アレルギーとは特定の食物の摂取により引き起こされる免疫反応の一種。原因食物には、他にも、卵やそば、甲殻類、ピーナツなどいろいろありますが、大部分の人にとっては、とても好きな食べ物だけに、これらにアレルギー反応を起こす人は大変不幸だと言えるでしょう。小麦だけをとっても、パン、うどん、天ぷら、カレーライス、お好み焼き、スパゲティ、ピッツァなどを全く食べない自分は想像出来ないのが現実。

アレルギー情報センターという団体の推定では、日本における何らかの食物アレルギーを持つ割合は、乳児は 10% と高いのを初め幼児期は高いが、加齢とともに耐性を獲得して減少し、全年齢では 1~2% 程度とのこと。また、原因食物を 100% とした場合、鶏卵 38%、乳製品 16%、小麦 8%、甲殻類 6%、そば 5%、魚類 4%、ピーナツ 3% など。これで計算すると特定の食物アレルギーを持つ人は、もっとも多い鶏卵アレルギーでも 1000 人中数人と言う少ない人数となります。



さて、問題は、皮膚粘膜の異常を初め、下痢など消化器系の異常や時には呼吸困難などのひどい症状が現れることで、特にそばやピーナツはアナフィラキシー（全身性。頻脈や意識障害）という重篤な症状がでます。日本では食品衛生施行規則により、含まれていることを表示する義務のある食品（卵、牛乳、小麦、そば、ピーナツ、えび、かに）や、義務ではないが表示が推奨される食品が定められています。そう言えばカレーのスタンドにも小麦使用のことが書いてありました。ただ、表示推奨食品に牛肉や豚肉、サケやサバなどの魚、大豆やりんごなども含まれるのを見ると大部分の人に味や栄養の面で素晴らしいものでも、例外的に一部の人には受け入れられない食品が実に多い、むしろそういう食品の方が圧倒的に多いような気さえします。

表示だけでいいというものではありません。幼児期にアレルギーが多いと言うことは学校給食にも影響、アレルギー持ちが 1 人でもいると学校は大変です。小麦アレルギーには特別に米粉のパンを用意するなど例外措置をしてあげる学校もあれば、「対応できないので弁当持参」と、言わば給食拒否のところもあるようです。

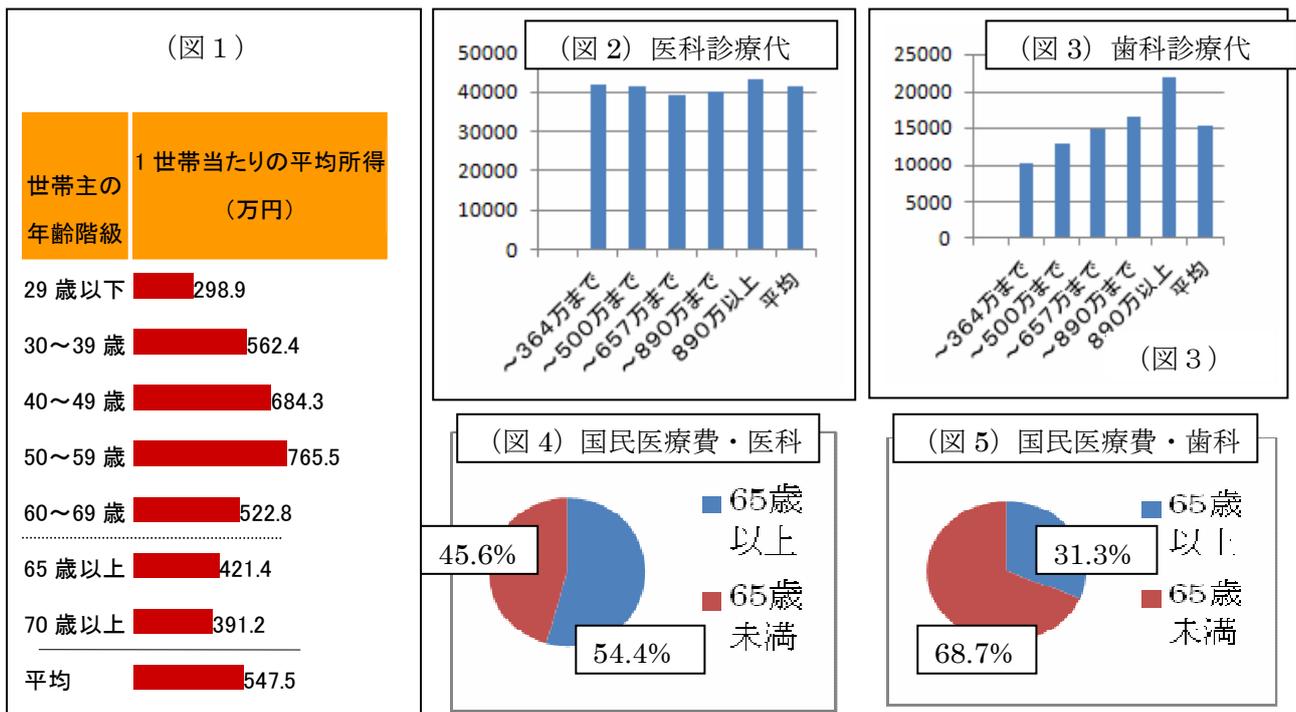
人生における「食」の意味は大きく、98~99% の人は何でも食べられるわけで、このマジョリティに自分が含まれていることを幸せに思うこの頃です。

所得と医療費

意味があるかは疑問？

エンゲル係数という言葉があり、「食」に使うお金額は所得に対する弾力性が小さいということを知りました。今では殆ど聞くこともない言葉ですが、医療費についてはどうでしょう。所得との関係を見てみましたがどの程度意味があるかには問題もあります。

下の5つの図は、年齢と所得の相関（図1）、医科診療代と歯科診療代の所得階層との相関（図2、3）、および国民医療費の医科と歯科に占める年齢別（65歳以上と未満）構成比（図4、5）。図2では、一見、所得によって医療費は差がないように見えます。しかしながらこれには大きな落とし穴があります。つまり、国民医療費の半分以上が65歳以上の人に使われており（図4）、言い換えれば、定年を過ぎ、年金暮らしになってからの方が医療にお金がかかるので低所得者でも多くの診療代がかかっています。一方、図3で示す歯科については、所得が増えるほど診療代が高くなっています。歯科医療費に占める高齢者分は31%。つまり約7割は現役世代が使っています。



(図1は国民生活基礎調査2010年、図2、3は家計調査年報2003年。図4、5は厚生労働省統計2008年)

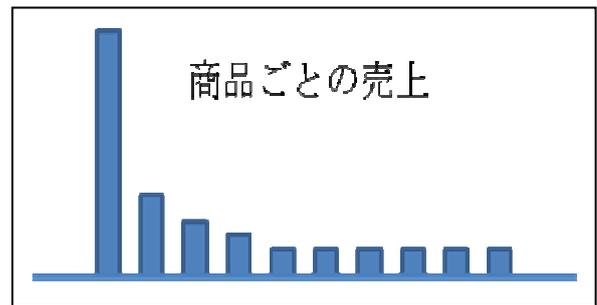
必ずしも年齢だけが所得と医療費の相関に関係しているというわけではなく、例えば、現在は、一般の医療は混合診療を禁止しているため、余程の高収入の人でないとの患者も保険診療の枠内で診療を選ぶため、所得による診療内容の違いは殆どないと言えるのに対し、歯科には自由診療が12～13%あり、所得による差を呈していることも理由の一つ。また、自由診療・民間保険中心のアメリカにおける所得と医療費の相関で、両者に強い正の相関があることが分かっています。

混合診療禁止はこのたび最高裁でも合憲と言う判断がなされ、またTPPに参加すると混合診療解禁は不可避と言う人もおり、先行き不透明ですが、現状は正確に認識しましょう。

医療は公共財かビジネスか

②8 ロングテイルに見る数の論理と情報

ロングテイル（長い尻尾）ビジネスという言葉をご存知でしょうか。ビジネスでは典型的な二八の法則、つまり商品アイテム数では全体の2割の商品が売上全体の8割を占めてしまう場合が多いのですが、それとは異なり、小数しか売れないものが大部分で売上の上でもそれがとても大きな比重を占めるビジネスで、典型的には本屋のようなビジネスがロングテイルビジネスと言えるでしょう。特に最近ではアマゾンのような巨大な商品数を扱う企業が出てくるのはコンピュータ時代の象徴でもあります。要はアイテム増加分の売り上げがそれ伴う費用より大きければいいわけです。



医療世界で、この観点から見てすぐに思い起こすことは、病気の種類と患者とか死因でしょう。病気の種類を数えるものとして、国際疾病分類（IDC）

という WHO で管理している病気の種類があり、現在病名としては約1万あるとのことです。厳密な統計は見当たりませんが、その中で、恐らく、いくつかのがんとか脳や心臓の血管障害を初めとする全体の1%に満たない病気が患者数あるいは死因の90%以上を占めることは間違いないでしょう。症例が世界でも数百例と言った希少疾病もいくつもあります。医療市場は、非常に細くて非常に長い尻尾と言えるでしょう。患者数が直接医療側の収入に響き、研究開発には多額の固定的費用がかかる医療の世界では尻尾の部分の部分に手をつけるのは困難。ただこの部分も決して見捨てないのが公共財としての側面で、薬ではオーファンドラッグに対する支援（対象患者数5万人以下の薬の開発費支援）があり、特定の難病患者には公的な支援の制度もあります。しかしながら、難病が長期に渡り難病である理由は、結局は、ビジネスであろうと公的なものでであろうと患者数が少ないと治療法、薬の開発にお金を投じることが出来ない、と言う側面も大きいのではないのでしょうか。

しかしながら、最近、慶応大学の加藤眞三先生がある雑誌で細いロングテイルにも少し光明が差してきていることを指摘されているのを見ました。つまり、希少疾患に対する情報です。以前は、希少疾患についての情報は本に書いても売れない、採算がとれないということで、希少疾患患者にはその病気に関する情報が殆ど伝わらない、大変心細い環境にあったのですが、インターネットの普及により世界中からかなり多くの情報が得られるようになったと言うことです。現在はまだ表面的、断片的だが将来的には体系化されてゆくと期待を持っておられました。

さて、情報と言う話ですが、われわれ患者・市民は直接治療には関われませんが、経験に基づく情報を出すことは可能です。今までは、医療に関する情報は、患者を診て医療側が出す情報を別の医療従事者や患者・市民が得ると言うパターンばかりでしたが、患者同士の情報交換も医療には大変重要な役割も果たし得ます。梶原代表の、Facebook の中で「健康医療市民倶楽部」を作るアイデアは、患者・市民の積極的な参加、情報の提供を呼び掛けていることに他なりません。

FAX : 03 - 5403 - 7724 健康医療市民会議宛て

定例会参加申込書

フェイスブックアンケート

定例会

送信日 月 日 (12月13日必着)

ご氏名 :

第45回(12月)定例会

<12月20日(火)TKP赤坂ツインタワーカンファレンスセンター>に

A. 参加します

B. 参加しません

同伴者、住所変更などご連絡事項がありましたらお知らせください。

フェイスブックアンケート

お手数ですが、該当するものに○をつけて下さい。(参考:本文P.3)

- 1) パソコン・携帯電話でメールをされていますか。(A はい B いいえ)
- 2) パソコン・携帯電話でインターネットを毎日ご覧になりますか。(A はい B いいえ)
- 3) ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS 例フェイスブック、グリー、ミクシ等)を利用することがありますか (A はい B いいえ)
- 4) フェイスブックについて
 - A. 殆ど知らない
 - B. 登録していないがおおよそのことは理解している
 - C. 登録している
- 5) 4)でA. Bの人
 - E. 今は登録していないが将来はすると思う
 - F. おそらく将来も登録しないと思う

健康医療市民会議 (KISK)

代表 梶原 拓

〒105-0013 東京都港区浜松町1-12-2 東武ハイライン大門203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: http://www.kisk.jp